

JAN.2015 No.2 初夏号

目 次

平成27年JAPRS新年会	7
2015年JAPRS新プロ・エンジニア研修会レポート	2
JAPRS/JAREC/AES松竹映像センター施設見学会レポート	4
第26回NHK技術交流会レポート	6
第26回NHK技術交流会レポート	6

会員動向

平成 27 年 JAPRS 新年会

1月22日(木)、平成27年JAPRS新年会が開催されました。本年は、昨年に続き元赤坂・明治記念館1F「若竹」に於いて107名の参加者により実施されました。

18:30 運営委員会の茂木副委員長(個人会員)、江下副委員長(ヴァストミュージックエージェンシー)の司会により開宴となり、最初に内沼会長が年頭の挨拶を述べられる。



内沼会長



続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務情報政策局 文化 情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋氏が挨拶される。

経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋氏

続いて乾杯となり、関連団体を代表して一般社団法人日本オーディオ協会会長 校條 亮治氏により乾杯の発声が行われ、歓談の時間となる。

正会員、賛助会員の他にも JAPRS に関連する 10 団体からの招待者が加わり、会場の所々で歓談の輪が出来る。



般社団法人日本オーディオ協会 会長 校條 亮治氏

20:10 中メの時間となり、一般社団法人日本レコード協会理事畑 陽一郎氏挨拶の後、20:30 無事に終了することが出来ました。



一般社団法人日本レコード協会 理事 畑陽一郎氏



2015 年 JAPRS 新プロ・エンジニア研修会レポート

3月8日(日)、今年度も東京都しごとセンター地下2階講堂に於いて、専門学校委員会の主催により「2015年 JAPRS 新プロ・エンジニア研修会」が開催されました。

この研修会は、これから音楽スタジオ業界に就職を目指す JAPRS 賛助会員専門学校 1年生を対象とし、エンジニアという仕事について、また望まれる人材と仕事の現状を講義形式で学ぶ研修会で、今回が第15回目の開催となりました。



受付

今回は参加予定者 78 名のところ 77 名が参加、(内訳は、札幌1名、仙台4名、東京57 名、名古屋8名、大阪7名) エンジニアという職種に対する関心の高さが伺えました。 当日は、13:00 に専門学校委員会担当者9名、事務局員3名が東京都しごとセンター



脇田副委員長



内沼会長

に集合し、13:30からの参加 者受付に備え、準備を開始し ました。

会場の準備もスムーズに行われ、参加学生も着席し予定どおり13:45より脇田 副委員長の司会のもと、研修会が開始されました。

講師の講演に先立ち、内沼会長よりJAPRSの活動内容、研修会の目的等が説明された後、以下の内容で各講師により講義が行われました。

- 1. 「レコーディングスタジオとは」 日等 進氏(株) フリーダムスタジオ
- 2. 「エンジニアの魅力と望まれる人材像」 吉田 保 委員長
- 3. 「現役アシスタントエンジニア特別コーナー」 コーナー司会: 脇田 貞二 副委員長 アシスタントエンジニア:

飯島 絵莉子氏 スタジオグリーンバード 専門学校東京ビジュアルアーツ OG

加藤 智明氏 MIT STUDIO 東京スクールオブミュージック専門学校 渋谷 OB

高西 和明氏LAB recorders専門学校札幌ビジュアルアーツ OB原田 潤也氏サウンドイン スタジオ

専門学校名古屋ビジュアルアーツ OB 4. 「資格認定制度について」

- 井良沢 元治 副委員長 5. 「専門学校委員会からのインフォメーション」
 - . 「<mark>専門学校委員会からのインフォメーション</mark>」 脇田 貞二 副委員長



目等 進氏



吉田委員長



アシスタントエンジニアの皆さん

今回は東京地区以外では、札幌、仙台、名古屋、大阪からの参加者がありました。

7月と9月に実施される技術認定試験へのチャレンジも含め、この研修会に参加した学生達が1人でも多く、スタジオのアシスタントエンジニアとしてスタートされることを願っています。

ご協力いただいた講師の皆様、現役アシスタントエンジニアの方々およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。



井良沢副委員長

JAPRS/JAREC/AES 松竹映像センター施設見学会レポート

株式会社メディア・インテグレーション 岡田 詞朗

2015年3月12日(木)に株式会社松竹映像センター様の見学会を実施しました。 株式会社松竹映像センター様はこれまでの3拠点(東劇オフィス、高輪スタジオ、 大船サウンドスタジオ)から港区台場に全てを統合、2014年12月にワンストップでの 制作環境を提供する目的で作られた最新の設備を有し、使用される方々が十分な創造 性を発揮頂ける空間として生まれ変りました。

見学会冒頭の株式会社松竹映像センター 代表取締役社長 松倉 浩二様のご挨拶で述べられた、コンセプトとしてゆとりある空間で快適なクリエイティブ作業を行ってもらいたい、と言うコメントに象徴される広々とした空間がそれぞれの設備には広がっていました。

今回の見学会では以下の3部屋を中心に実施となりました。大船サウンドスタジオからの移設で、天井高の取れる1Fに位置するDubbing Stage、高輪スタジオからの移設で7Fに位置するAVID ICON D-ControlのDual MAINシステムが導入されたAudio Suite、同じく7Fに位置する今回新設の、旧作のデジタルリマスター制作に加えて、映像作品のカタログ化、デジタル修復・保管・管理サービスを提供し、旧作の効果的な再活用と支援を行うMedia Asset Management(MAM)の3部屋がそれに当たります。以下は各部屋の詳細となります。

◎ Dubbing Stage(説明担当: 株式会社松竹映像センター 清水氏、 日東紡音響エンジニアリング株式 会社 崎山氏)



Dubbing Stage

大船にあった AVID system 5 コンソールを移設した映画本編仕上げ用の空間です。 常設の5 台の Pro Tools システムからはそれぞれ 64ch@96kHz の出力が可能。それを 3 台の Nuendo が 96kHz ドメイン、アナログで受けるシステムとなります。 System 5 とは、Pro Tools,Nuendo 共に EuCon で接続され、そのコントロールが可能となって います。 最終段のレコーダーも Nuendo がチョイスされ、コンソールとはアナログで 接続されており、通常であれば SRC を使ってサンプルギャップを埋めてしまうことも 多いのだが、その音質変化を嫌い全ての接続段で DA/AD を行いアナログによる接続をとっています。

また全ての設備に共通となりますが、Room EQ として Real Sound Lab 社の APEQ-8 pro が導入されているのも特徴の一つで、共通の Room EQ の機器を採用することで、

音色差を極力減らしたいという意向が現れていました。プロジェクターは 4K 対応のモデルを導入し、今後の高画質化にも対応できるシステムとなっていました。

◎ Audio Suite(説明担当:株式会社松竹映像センター 吉田氏)

こちらは高輪台からの移設、AVID ICON D-Control の Dual MAIN システムが導入 されており、それぞれに接続された Pro Tools と映像再生用の Video Satellite が Satellite Link で同期をとっています。この部屋の特徴は、なんといってもスピーカー 2ch 用に ADAM S5X-H とサラウンド作業用に ADAM S3X-H を採用し、ベースマネージメント無しで十分な低域までのフルレンジ再生を可能としていました。



Media Asset Management

◎ Media Asset Management (MAM)(説明担当:株式会社松竹映像センター 五十嵐氏、井上氏、株式会社フォトロン八木澤氏)

ここでは松竹映像センター様の持つ膨大な過去作品アーカイブの Media Asset を行っています。AVID Interplay MAM がそのマネージメントツールとして利用されており、このツールにより、映像1フレーム単位でのメタデータの書込が可能となっています。「男はつらいよ」を例に取ればこのフレームからこのフレームまでが帝釈天のシーン、寅さんが登場しているのがこのシーンといったように記録しておくことが出来ます。そしてそれらデータを検索可能というところが特徴となります。

まずは、過去の人気作品から作業をスタートし、今後は、新作も順次メタデータの入力を行っていきたいとのことでした。そのデータストレージは EMC Isilon が採用されており、このサーバーはスケールアウト型 NAS と言われる種類の製品で中のデータを消去することなく、サーバー筐体の追加でその容量を拡張できるという大きなメリットを持つサーバーとなります。

最後に。今回の株式会社松竹映像センター様の見学会では試みに、各団体間の懇親と意見交換の意味合いを含み日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、AES日本支部の3団体合同での開催となりました。普段なかなか同じ場所に集うことのないメンバーおよそ70名が一堂に会した様は個人的には壮観に思えました。

また今回開催にあたりご協力頂いた関係各位に感謝の意を表し、レポートを終わりとさせて頂きます。

第26回 NHK 技術交流会レポート

日本音楽スタジオ協会 技術委員 高田 英男 深田 晃

ハイレゾ配信ビジネスが広がりを見せている今、音質基準を明確にした各ハイレゾフォーマットの音質的特徴を体験する NHK 技術交流会が行われた。

期 日 平成27年3月14日 (土)

場 所 NHK CR-506st

参加者 25 名

セミナー内容

- ・音質基準 API アナログコンソールによるダイレクト 2ch 録音によるコンソール 出力(BUSS OUT)を音質基準とする。
- ・比較デジタルフォーマット

PCM フォーマット

- ① 48kHz/16bit ② 96kHz/24bit ③ 192kHz/24bit ④ 384kHz/32bit DSD フォーマット
- (5) DSD5.6M (6) DSD11.2M
- ·機材協力 深田 晃氏

個人会員 Dream Window works 赤尾 真由美さん

(株)メディア・インテグレーション 斎加 博和氏、河村 学氏 ミックスウェーブ (株)

・ミュージシャン

SAX苫米地 義久氏Apf石塚 まみさん

Perc 石川 智氏



- ・レコーディングエンジニア 高田 英男 (フリー 個人会員)
- ・アシスタントエンジニア 石 光孝 (株) ミキサーズラボ
- ・取材協力 (株) ステレオサウンド プロサウンド誌

「機材関係

今回の技術交流会は各フォーマットの違いによる音質の確認を行うという目的であった。しかし、音質比較には技術的に様々なハードルがある。

それは録音機器の電源環境、アナログのケーブル長、機材そのものの特性、入力側のコンソールの特性、再生するスピーカの特性などで音質が変化する可能性があるからである。

特に高サンプルの PCM や DSD を用いた録音では当然再生周波数も高くなるのでコンソールの入力段階及びモニター系による音の変化、そしてモニタースピーカに再生限界以上の周波数の高域エネルギーが入力されることによるツィータの歪み等が起ることも想定されるため音の判断を誤ることも考えられる。また、今回はブラインドではない主観評価であるからエンジニア個々人の好みや思考が音質評価に影響することも考えられる。

したがって、この音質評価は我々が普段接するスタジオ環境においてフォーマットの違いが概ねどのように現れてくるのかを知り、そしてそれぞれのフォーマットの大凡の傾向を把握して仕事に役立てる事を目的とするのが良いと考えられる。

更にレコーダー(DAW)出力は一切モニターせず、あえて「録りっ放し」により、各フォーマットでの音質の差が出る事を期待した。



録音システム:

我々の普段のスタジオにおける制作環境はアナログコンソールの出力を AVID ProTools-HD システムで録音することが基本となる。ProTools システムは PCM の 44.1kHz16bit から 192kHz24bit までの録音を行うことができるが 192kHz 以上のサンプリングレートの録音を行うにあたっては別途機材が必要となる。今回行った 384kHz のサンプリングレートで録音できるのは Magix の Sequia および Samplitude、Merging Technologies の Pyramix 等がある。また、1bit δ Σ 方式である DSD 録音が可能なのは同じく Pyramix そして Korg MR-2000 や TASCAM DA-3000 等の機材がある。しかし DSD において最新の DSD256(11.2M sampling)での録音が可能なのは Pyramix だけである。そこで PCM Fs=384kHz の録音及び DSD の録音に関しては Pyramix と Horus(A/D,D/A)コンバータを用いることにした。

Horus コンバータは Core Audio や ASIO といったドライバーでも動作するので Pro Tools においても CoreAudio ドライバーで動作させれば Horus を用いることができる。 各フォーマットの音質比較ということであれば A/D、D/A の違いによる音質差も当

然現れてくるので全て同じコンバータで比較することも検討したが、ProToolsをHDシステムで用いるのと Core Audio で用いる場合の音質差についても不確定であるため、普段スタジオで使用している HDシステムを用いることになり ProTools-HDXとHD I/O を用いた。

整理すると

1 Fs=48kHz 16bit, ② Fs=96kHz 24bit, ③ Fs=192kHz 24bit は Pro Tools-HDX+ HD I/O

4 Fs=384kHz 32bit, **6** DSD128(5.6M), **6** DSD256(11.2M)はPyramix+Horusとなる。

周辺機材:

コンソールは API Vision、モニタースピーカは NES211S(日東紡音響)で録音系は Internal 動作とし、クロックジェネレータ等は使用しなかった。

録音アプローチ:

各デジタルフォーマットによる音質的特徴を把握する事が今回の目的であり、その 為にシンプルな録音方法を選択(ダイレクト2ch録音)し、使用マイクも素直なアコー ステックサウンドを目指す機種選定とした。

<マイク>

SAX : Neumann M-149 $\times 2$ Apf : Schoeps CMC-521 $\times 2$ DPA-4006 $\times 2$

DPA-4011×2 Perc: 三研 CU-41×2 AKG-C-451×2

<リバーブ>

Lexicon L-960 L-480

[各フォーマット音質的特徴] (エンジニア高田の個人的感想)

48kHz/16bit

- ・中低域が力強くパワー感はある
- ・帯域バランスが狭く感じる
- ・SAX、Apfなどのエコー感が短く感じる
- ・Apf、シンバルなどの中域にピーク感が残る

96kHz/24bit

- ・帯域バランスが良い感じ(低域~高域)
- ・中低域の力強さもある
- ・48kHz/16bit より素直な音質感
- ・超高域の素直な伸びが無い

192kHz/24bit

- ・透明感があり音に解放感~広がり感がある
- ・素直な音色感で超高域が伸びる
- ・中低域のパワー感が少し弱い

384kHz/32bit

- ・帯域バランスが良く低域〜超高域まで素直に伸びている
- ・中低域のパワー感も安定
- ・コンソール出力に近い音色感を保ちながら、全体的に少し誇張された音色感で あるが大変魅力的な音質感である

DSD5.6M

- ・PCM と比較して音に独特の厚みを感じる
- ・中低域が安定している
- ·パワー感もある
- ・アナログ的音質感を感じる
- ・超高域が少し詰まる感じがする

DSD11.2M

- ・コンソール出力にかなり近い音色感である
- ・帯域バランス(低域〜超高域)まで素直
- ・解像力が素晴らしく音の細部まで見える
- ・超低域に独特の質感を持つ

「纏め」

CDフォーマットより上位デジタルフォーマットによる音質を体験し感じる事は、各フォーマットに明確な音質的違いはあるものの、従来のCDフォーマットとはあきらかに一線を越えた音世界を痛感したセミナーであった。音を入れる器は情報量が多くなればなるほど、音楽表現力は増していき魅力ある音世界を創りだす力は感じられた。更にPCM録音の魅力と同時に、DSD録音による音的魅力も再認識出来たセミナーであった。

今後エンジニアとして各フォーマットによる音質特徴を把握し、担当したプログラムが現場対応を含めて何が BEST かエンジニア自身が判断し、制作(アーティスト)に提案する事が現実的対応になってくると思う。

叉、各フォーマット(スペック)に即した A/D,D/A とは何かなどソフトとハードが連携し更なる音の魅力を創っていく事が重要である。

今回、レコーディングセミナー的な感じもあり、日本を代表されるエンジニアの皆様が後ろで試聴されることは、半端ない緊張感の中でのミキサー体験でもあった。

最後になりましたが、NHK 様及び機材提供~現場オペレートをして頂きました皆様、 無理な相談に快く付き合って頂きましたミュージシャンの皆様のお蔭で、大変貴重な セミナーが実現出来ました事、お礼を申し上げます。



Perc 石川 智氏

Apf 石塚 まみさん

SAX 苫米地 義久氏

会 員 動 向

1. 会員数(平成27年5月1日現在)

- 2. 入会
 - ①正会員
 - ○株式会社三和映材社(三和レコーディングスタジオ) 平成27年5月1日付
 - ②替助会員
 - ○尚美ミュージックカレッジ専門学校

平成27年4月1日付

- 3. 退会
 - ①正会員
 - ○有限会社アルデバラン

平成 27 年 3 月 31 日付

- 4. 法人・会員代表者および住所変更、その他
 - ①賛助会員
 - ○住所変更

株式会社リットーミュージック

- (新) 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング TEL: 03-6837-4709 FAX: 03-6836-4715
- ○会員代表者変更

ビジュアルアーツ専門学校・大阪

- (旧) 中村 純一
- (新) 西本 寛(学務部係長)
- ○会員代表者変更

専門学校札幌ビジュアルアーツ

- (旧) 岩間 信夫
- (新)深澤 槇一
- ○法人名・会員代表者変更

株式会社サンフォニックス(旧:株式会社サンミューズ)

森 弘二 (販売事業本部課長)

- 5. その他
 - ○代表取締役社長変更

日本コロムビア株式会社

- (新) 吉田 眞市(代表取締役社長)
- (旧) 原 康晴(取締役副会長)
- ○法人名変更
 - (旧) 株式会社フジパシフィック音楽出版
 - (新) 株式会社フジパシフィックミュージック

平成27年1月1日付

○閉校

甲陽音楽学院名古屋校

平成 27 年 3 月 31 日付

- ○異動
 - 一般社団法人日本レコード協会 末永 昌樹
 - (新) 企画部マーケティング・グループ課長
 - (旧) DS 部課長
- ○代表取締役変更

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント

- (新) 水野 道訓(代表取締役)
- (旧) 北川 直樹 (代表取締役副会長)
- ○代表取締役変更

株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

- (新) 古川 愛一郎 (代表取締役執行役員)
- (旧) 水野 道訓(取締役)
- ○代表取締役変更

株式会社レーベルゲート

- (新) 一茂 順夫 (代表取締役執行役員社長)
- (旧) 今野 敏博(取締役)
- ○事務局長変更
 - 一般社団法人日本オーディオ協会
 - (新) 照井 和彦
 - (旧) 五十嵐 裕史

法人正会員·準会員 代表者各位

> 平成27年6月10日 (一社) 日本音楽スタジオ協会 事務局

平成27年特定サービス産業実態調査へのご協力のお願い

経済産業省では、平成27年7月1日現在で統計法に基づく基幹統計調査として、「平成27年特定サービス産業実態調査」を実施します。

この調査は、

・サービス産業の実態を明らかにし、サービス産業に関する施策の基礎資料を得ること

を目的としており、調査対象事業所・企業には、6月中旬頃から順次、経済産業省より調査関係書類が送付される予定です。

つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、御回答いただきますよう、宜し くお願い申し上げます。

【調查対象業種】

- ●ソフトウェア業 ●情報処理・提供サービス業 ●インターネット附随サービス業
- ●各種物品賃貸業 ●産業用機械器具賃貸業 ●事務用機械器具賃貸業 ●自動車賃貸業 ●スポーツ・娯楽用品賃貸業 ●その他の物品賃貸業 ●デザイン業 ●機械設計業
- ●広告業 ●計量証明業 ●冠婚葬祭業 ●映画館 ●興行場、興行団 ●スポーツ施設提供業 ●公園、遊園地・テーマパーク ●学習塾 ●教養・技能教授業 ●機械修理業(電気機械器具を除く) ●電気機械器具修理業 ●映像情報制作・配給業 ●音声情報制作業 ●新聞業 ●出版業 ●クレジットカード業、割賦金融業 ●映像・音声・文字情報に附帯するサービス業

【連絡先】〒100-8902

東京都千代田区霞が関 1-3-1 経済産業省大臣官房調査統計グループ 構造統計室サービス産業実態統計班 TEL: 03-3501-0327 (直通)

♪ 編集後記♪

最近は物事に鈍感な私ですが、感銘をうけた動画が有りますので、ご紹介します。 動画の植松さんは、「どうせ無理」は恐ろしい言葉、人の自信と可能性を奪う…… と話されています。是非!

https://www.youtube.com/watch?v=gBumdOWWMhY

Smith

事務局の前の明治通りでは、連日、議員立候補者の車が止まり、所属党と候補者名を連呼している音が響いています。少しも変わらないこのスタイル、不思議ですね。

hair ken short

今年は、花見もせず、アットいう間に散ってしまったような。事務局そばでは、全く咲かなかった 木も沢山ありました。なにか変?

yakiton

そろそろ "スマホデビュー"かなあと思いながら、何年経ったことでしょう。色々できて楽しそうでも、なかなか決心がつきません。

mm

******************* 務 委 員 会*************

委員長 清水 三義(青葉台スタジオ)

委員佐藤賢一(事務局)

" 山本 薫(")

ップ 伊東 真奈美(ップ)

【発行人】会 長 内 沼 映 二 【発 行】2015年(平成27年)6月

【発行所】一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号 モナーク大久保3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編集】総務委員会 【印刷所】株式会社研恒社

